

岩国市立高森小学校児童が椎茸菌の植え付け作業を体験

令和6年2月20日(火)に岩国市立高森小学校において、3年生44名(1組21名、2組23名)を対象とした森林体験学習が実施されました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「森林・里山づくり研究会」(会長:木村琢寛)が行ったものです。

はじめに、会員から森林の役割と椎茸栽培の話聞いた後、椎茸ドリルの使い方、椎茸菌(種駒)の打ち方について説明を受けました。

その後、クラス毎に2班に分かれ、会員の指導を受けながら、原木に椎茸ドリルで穴をあけ、木槌で椎茸菌(種駒)を打ち込みました。

児童たちは、初めて使う道具に戸惑いながらもとても熱心に取り組み、5年生になった時の椎茸の収穫を楽しみにして森林体験学習を終えました。



電動ドリルでの穴あけ



シイタケ駒打ち